

施策名：研究開発型スタートアップ支援事業

経済産業省技術振興・大学連携推進課
03-3501-1778

分野

サービス産業分野等での未来技術の活用

総合戦略
該当箇所

横2-1-(2)-v

予算額

令和2年度3次補正一般会計

698百万円

令和3年度当初一般会計

2,138百万円

特徴・
ポイント

- 優れた技術シーズを持ち急成長の可能性を秘めた研究開発型スタートアップに対して、事業フェーズに応じて、研究開発計画の実現可能性調査や実用化開発費・共同研究費等の補助、社会実装（量産化）段階に至る実証研究開発の補助等の支援を実施する。

目的

- 研究開発型スタートアップは、スピード感を持った果敢な研究開発により技術的優位な立場を構築できるため、技術イノベーションの担い手として期待される存在で、その創出や成長のための環境整備が重要ある。
- しかしながら、研究開発型スタートアップを取り巻く環境は依然として厳しく、自律的・連続的に創出・成長が繰り返される「エコシステム」の構築には未だ至っていないため、当該事業を通じて成功モデルの創出と関係者の定着を通じてエコシステムの構築を目指す。

概要

- 本事業では、将来的にJ-startup(※)対象企業に選出されるような、急成長の可能性を秘めた研究開発型スタートアップに対し、その事業段階に応じた支援を関係者のコミットを得ながら実用化開発等に係る費用等を支援すること(STS/PCA)や、民間有識者の知見も活用しつつ、政策課題から研究開発テーマを設定し、技術的実現可能性調査から支援する(SBIR)。
※「J-Startup」とは、グローバルで活躍できるスタートアップ企業を官民により集中支援する取り組み。

<期待される効果>

- 事業年度毎の支援終了1年以内に次のステージの資金調達に成功する割合が5割
- NEDOが本事業を開始する前と比較して、NEDOが認定したVC等の研究開発型スタートアップに対する投資額が2倍

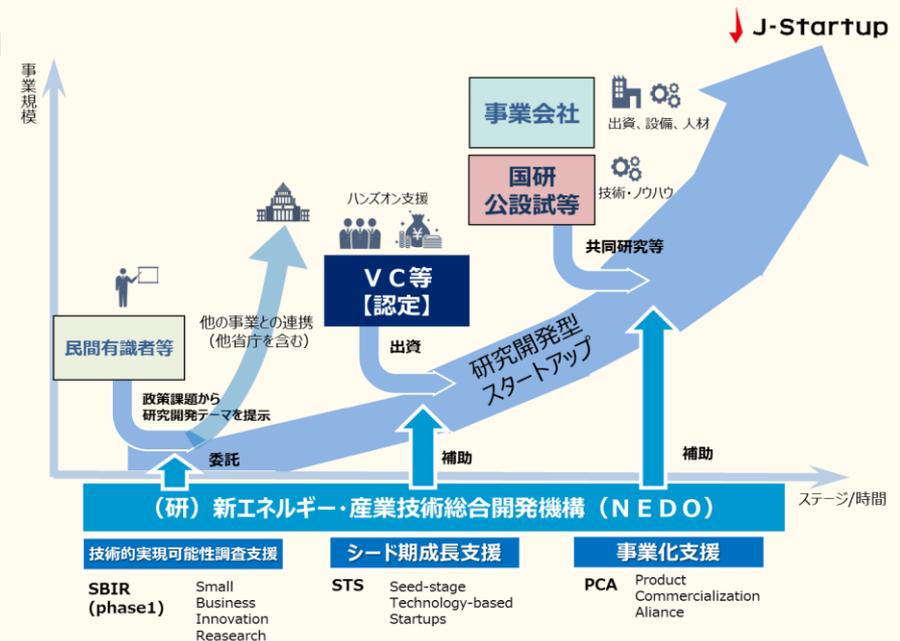
<資金の流れ>



<対象事業のイメージ>

- SBIR：研究開発計画の実現可能性調査に係る費用を助成
- STS：実用化開発、試作品製作等の事業化に係る費用の一部を助成
- PCA：事業化を進めるために必要な、研究開発やF/S調査に係る費用の一部を助成

交付決定先や活用実績など、事業の詳細は、NEDOのHPをご確認ください
https://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP_100091.html



詳細

活用事例

トリプル・ダブリュー・ジャパン 株式会社

事業概要

- ・ 排泄の悩みや負担を軽減するソリューション「Dfree」企画・開発・販売
- ・ 超音波で膀胱の大きさを捉えて、スマホに排尿タイミングを通知

研究開発型スタートアップ支援事業・J-Startup支援の効果

- ・ シード期の研究開発支援であるSTS事業にて「Dfree」の開発を行い、SCA事業（事業化支援事業、PCA事業の前身）にて同製品の販売に向けて**アクセントアヤパナマウントベッドとともに販路拡大、顧客の要望や意見を踏まえた研究開発を進めた。**
- ・ その後、J-Startupの支援として**世界最大のテクノロジー見本市「CES 2019」に出展し4つのアワードを受賞。**現地紙で多数報道され、ブランド価値向上。**関心を持った米国企業から引き合いがあり、代理店契約を締結。**

株式会社 チャレナジー

事業概要

- ・ どのような風速・風向でも安定的な発電が可能な垂直軸型マグナス式風力発電機を開発

研究開発型スタートアップ支援事業・J-Startup支援の効果

- ・ SUI事業（プレシード期の研究開発支援、2016年終了）にて基礎研究を進め、STS事業にて発電ワット数を向上させた風力発電機を開発を行う。
- ・ 2019年にスカパーJSAT株式会社と**衛星通信との組み合わせによる災害時でも電力と通信を継続使用できる防災システムとして国内外で共同で販路拡大の事業連携を行う。**これにより離島における通信ネットワークの不備も補完。
- ・ その後、J-Startupの支援を受け、海外展示会・イベントに参加し、海外でも評価が高い。**とりわけフィリピンにおいて大きな注目を集め、2019年に首都マニラにオフィス開設。**